



※グラフデータが見にくく申し訳ありません。よろしければ学校HPのカラー資料を御覧ください。

今年度、本校では「志を持ち 自ら学び 良さを伸ばし合う生徒」の育成を学校教育目標に掲げ、明日も来となる丸塚中学校 ～誰もが安心して学ぶことができる居心地の良い学校～ を目指す学校像とし、【対話・信頼・感謝】を合言葉に日々の教育活動を行ってまいりました。このことについて、教育活動の成果が生徒の姿としてどの程度表れているのかを検証するため、アンケートを実施しました。回答への御協力、ありがとうございました。結果を検証し、来年度の教育活動に生かしてまいります。

1 アンケート結果より

アンケートは「そう思う」「だいたいそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の4件法にて実施いたしました。

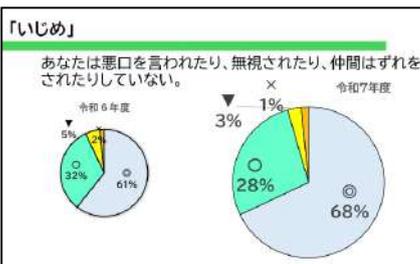
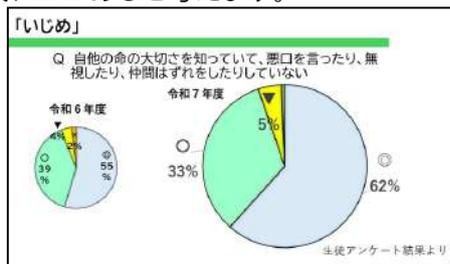
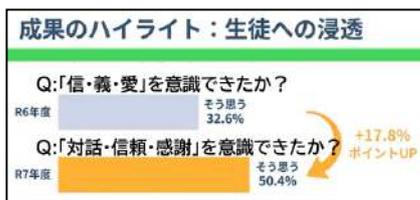
合言葉である「対話・信頼・感謝」に対する意識が、昨年度の合言葉「信・義・愛」に対する意識よりも17.8ポイント高まりました。合言葉が単なるスローガンで終わらず、生徒の内面に浸透しつつある結果であると考えます。過半数の生徒が「そう思う」と回答しており、昨年度から飛躍的な向上が見られました。

「自分には良いところがある」に対して「そう思う」と回答した生徒の割合が昨年度の31.7%から36.5%に、「仲間から認められている」に対して「そう思う」と回答した生徒が昨年度の30.2%から36.3%にそれぞれ上昇しました。自己肯定感の高まりとともに、質が向上したことがうかがえます。「対話」を基にした授業構想や学級経営、学年経営により、昨年度以上にお互いを「信頼」する関係が深まってきたことがわかります。

「明日も来となる学校か」に対して「そう思う」と回答した生徒が、昨年度の49.0%から57.5%へと8.5ポイント上昇しました。5割以上の生徒が明日も学校に来たいと「強く」思っていることがわかりました。学校満足度の向上は本校の最終的な成果指標であると考えます。本校を目指す生徒像である「誰もが安心して学ぶことができる居心地の良い学校」に向けて、「対話・信頼・感謝」を合言葉とした教育活動の成果が表れつつあると考えます。

「自他の命の大切さを知っていて、悪口を言ったり、無視したり、仲間はずれをしたりしていない」に対して95%の生徒が、「あなたは悪口を言われたり、無視されたり仲間はずれをされたりしていない」に対して96%の生徒がそれぞれ「そう思う」または「だいたいそう思う」と回答しました。お互いを大切にす気持ちを持つ生徒が非常に多くいることがわかります。お互いの存在を意識し、社会生活において必要なスキルを身に付けてきていることがわかります。

一方で、「SNSは正しく使っている」に対して「そう思う」と回答した生徒は73.9%、「お子さんはSNS等を適切に利用できている」に対して「そう思う」と回答した保護者は11.5%で、生徒と保護者でSNSの利用についての認識のずれが見られます。生徒は「できている」と感じています。保護者は強い不安を抱えていることがわかります。



2 令和7年度の成果と令和8年度の展望

「対話・信頼・感謝」が浸透し、学校文化として定着してきました。また、自己肯定感と学校満足度が向上し、明日も学校に来たいと思う生徒が大幅に増加しました。これを受けて、令和8年度は「自己肯定感の育成」を継続するとともに、高まった信頼関係を基盤に、さらなる学力向上に向けて教育活動に取り組んでまいります。